



のびのび若っ子

「One for all⇔All for one」

児童支援専任・特別支援コーディネーター 原田 亮

日に日に寒さが厳しくなり、年末へのカウントダウンが進んでいます。12月は「師走」というだけあって、本当に月日が経つのが早いと感じます。こうして今年も無事にこの「師走」という季節を迎えることができ、それも保護者の皆様のおかげであると感じ、感謝しています。

私は小学校2年生からずっとサッカーをしています。サッカーは11人で試合をするもので、「チームプレー」が大切であると言われてきました。12月17日に、日本代表や世界でも活躍し、日本のサッカー界に歴史を刻んできた中村俊輔選手の引退試合が三ツ沢球技場で行われました。1年前に引退し、現在は横浜FCでコーチをしている元プロサッカー選手の引退試合に集まった観客は1万5千人。中村俊輔選手がどれだけ偉大な選手であったかを物語っています。横浜市出身の中村選手について、私自身も学生時代からプレーを実際に見に行き参考にしたり、著書を読んだりしました。世間では「天才レフティー」と呼ばれることもありましたが、中村選手が残した言葉の中に

「自分をしておくことは大事だ。自分ができること、できないことを。」

「足りないものがわかれば、それを埋めることを考えればいい。何もわからないより、よっぽど素晴らしい。」

という言葉があります。「天才レフティー」と言われ世界で活躍した選手でも、自分に何が足りなくて、その足りない部分をどうやって補うか考えたり、チームの中でどのように長所を生かすか考えたりしています。これはサッカーの世界で特別なことなのではなく、小学校においても重要である考え方だと教員という仕事に就いてから感じました。学校の中で言えば、クラスや委員会、クラブで考えても、私たち教員の組織で考えてもとても大切です。自分一人では到底できないことでも「集団」で行うことで壁を乗り越え、前に進むことができます。11月27日から12月9日は「人権週間」でした。「みんな違ってみんないい」という言葉があるように、一人ひとり個性があります。得意なことがあれば、苦手なこともあります。そこを指摘し合うのではなく、互いに尊重し、認め合い、支え合って生活することこそ集団で生活するよさであると改めて実感しました。

今年も残り9日となりました。4月からここまでの9か月間、子どもたちのよさをたくさん見つけ、価値付けてきました。新年も職員一同、子ども一人ひとりのよさを伸ばせるように力を合わせて進んでいきます。1月からも保護者の皆様、地域の皆様の厚いご支援をよろしくお願いいたします。どうぞ、よいお年をお迎えください。

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切にできる心を育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』